公開授業と合評会実施を成功させる秘訣

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室 佐藤 浩章

0. なぜ私は公開授業を高く評価しないのか？

- ・ 公開授業のルーツ
 - ①初・中等教育における授業研究→コンテンツの共有がなされている
 - ②学会→改善動機が高い、本人の自信も強い
- ・ 授業改善はデリケート（個別対応が必要であり、時間がかかる）
- ・ 手間の割に、効果は大きくはない
- ・ 思慮深く実施しなければ逆効果

1. 何のための公開授業&合評会なのかを明確に

- ・ 個人の授業技術の向上？
- ・ カリキュラム改善のための現状把握？
- ・ 教育業績の評価？

2. 本人の意思を大切に

- ・ なぜ授業を見せたがらないのか？
 - ①授業批評される必要性を感じていない→大学教育についての誤解
 - ②自分の授業に自信がある→ノウハウ流出、業務増加を恐れている
 - ③自分の授業に自信がない→他者からの批評を恐れている
(弱みをもつ教員の多くはすでに学生からの指摘で傷ついている。多くの同僚の前で自らの弱みを指摘することは傷口に塩を塗るようなもの。)
→いずれも同僚性の欠如
- ・ 教授団という組織として授業改善に取り組む決意と労力提供の覚悟があれば公開授業は意味がある。
- ・ 嫌がる人に無理に公開をさせてはいけない。誰にもメリットはない。

3. 教室で何が起きているのかを複数の目でしっかり観察する

- ・ 授業改善の第一歩は教室で何が起きているのかを高い精度で把握すること。
(授業アンケート＝「精度の荒い市場調査」) + α
- ・ 授業者本人が気づかない教員の言動、学生の言動を客観的に記述すること。
- ・ 学生に「学習動機を促進・低下させた教員の言動」を聞き取るのも有効。

4. 目標の達成度に着目する

- ・ 良い授業かどうかを検討する際、授業の技術的側面が評価されがちであるが、大事なことは、学生に課す目標が達成されたかどうかという点にある。
- ・ 事前に授業の目標を確認し、その目標を最も効果的・効率的に達成する授業手法が採用されていたか、それを当該教員が遂行できていたかに着目して、評価をすべきである。
- ・ カークパトリックの評価の4段階論
 - ①Reaction：満足度
 - ②Learning：学習目標到達度
 - ③Behavior：行動変容度
 - ④Results：成果達成度

5. コメントは、良い点：8割、改善点：2割のバランスで

- ・ 技術的な課題は、録画した授業の映像を本人が見て気づくことが多い。
- ・ 良い点は本人がなかなか気づかないのでしっかり指摘する。
- ・ 課題を指摘する教員は、その解決策もあわせて提示しなければならない。もし提示できない場合は、当該教員とその課題を共有し、解決のために共に考える姿勢を示すとよい。

6. 本人が指摘された課題を解決できる仕組みはあるか

- ・ コンサルタントによる相談体制
- ・ 多くの教員に共通する課題に関する勉強会
- ・ FDに関わる学習教材の整備

7. どの範囲で誰が責任をもって行うのかを明確に

- ・ 自主参加型の参加方式でいくのか、どうか。
- ・ 一人、二人（コンサルテーション）、三人（Teaching Triangle）、四人（Teaching Square）、複数（Teaching Circle）で行うのか。
- ・ 個人単位、研究室単位、学科単位、学部単位、全学で行うのか。
- ・ FD委員の仕事はどこまでか（企画、調整、指導・助言）。